

## 特集

## 磯部琇三さんを悼む

松村雅文（香川大学教育学部）

磯部琇三さんの訃報に接したとき、あまりに突然なこと、またあまりに早すぎることに、驚きを禁じえませんでした。ここでは私個人の記憶を辿り、磯部さんが私たちに残してくれたものについて考えてみたいと思います。

直接の師匠や先輩ではない天文学者から最初に手紙をいただいたのは、磯部さんからでした。1986年10月、大学院生だった私は、最初の天文学の論文（塵粒子による光散乱に関するもので、いわゆる Mie 理論の計算）を書き、何人かの関連の研究者に別刷りをお送りしました。これに対して、真っ先に返事を送ってくださったのが、磯部さんでした。

「別刷 拝受しました。グレインの計算は私もまだ興味を持っているのですが、もうなかなかやる事がなくなってしまうので、はでさはないけれども大切な仕事ですので、がんばって下さい。取り急ぎお礼まで。  
東京天文台 磯部琇三」

磯部さんは、私の研究にとって、非常に先駆的な仕事をされておられ、この一通の絵葉書は、駆け出しの私にとって非常な励ましとなったものでした。

私が磯部さんから絵葉書もらった頃、天文教育について議論がなされ、第1回の「天文教育研究会」が開催されて、当会の結成に至ったこととなります。この頃の状況や初期の頃の当会への磯部さんの貢献については、水野さんをはじめ多くの方々によりご紹介いただけたと思います。申し訳ないことに、この最初の頃は、私はまだ当会の会員ではありませんでした。

あまり話題にあがらないことで、磯部さんがご尽力されたものの一つに、Teaching of

Astronomy in Asian-Pacific Region 誌の編集と出版があります。この雑誌は、磯部さんが国立天文台に在職中、恐らく独力で発行されていた、天文教育についての英文誌です。現在、当会の一つの課題が、いかに国外に我々の努力や成果を伝えていくかについてですが、このことについても、磯部さんは先駆的な仕事をされておりました。この経験は貴重なことと思います。ただ残念なことに同誌は、大学図書館関係では国立天文台に部分的に残されているのみのものであり、早急にアーカイブする必要があると思われます。

磯部さんは、ご逝去前に文章を用意されており、それが今年1月20日の新聞各誌に掲載されました。いかにも磯部さんらしいと私が感じた部分を引用します：

「...（前略）... ひょっとしたら、私が亡くなればこの宇宙全体も無くなるのではと思ったりしております。万一、皆様の存在が残る場合には、有意義な人生をすごされるよう願っております。...（後略）...」

（2007年1月20日、新聞広告より）

厳密に証明することは難しそうですが、宇宙全体はまだ存在しているようです。そして磯部さんが開拓され、我々に残された課題、つまり天文教育普及の諸問題は、より重要になって来ています。“はで”になったとも言えるのかもしれませんが。

当会の初代会長の磯部琇三さんは、常に先頭を走っておられ、我々を導いてこられました。心からご冥福をお祈り致します。

松村雅文